

言葉の力

阿南第二中学校 一年

桑田 美羽

(敬称略)

私は、運動がとても苦手です。だから、体育の時間、いつも心の中でため息をついていました。プレイ中もうまくできなくて、こんなにどんくさい、自分に呆れながら、味方に謝ります。これが、体育の時間の習慣のようになってきているような気がします。

ある日の体育の時間、また、私のチームは負けてしまいました。

「ごめん。私ってやっぱり下手だなあ。」

こんなに謝る自分が悔しくて思わず弱音まで吐いてしまいました。でもその友達はどう励ましてくれたのです。

「いけるよ。私だって下手だから気にしなくていいよ。」一瞬で憂鬱な気持ちや嘘のようになくなりました。そして頑張ろうと言う気持ちが芽生えてきました。また別の日の体育の時間も、自分のチームが負け、とっさに謝ります。すると、一緒にチームだった、先ほどとは違う友達がこう言いました。

「いけるいける。楽しくやろう。それでオッケーだから。」

その時も以前と同じように、やる気が湧いてきました。このような言葉は私にとって、とても嬉しい言葉です。励ます言葉というのは、とっても大切ですね。私もこの経験を通して、改めて励ます事の大切さと、励まされた時の心が軽くなる感じがよくわかりました。皆さんも励まされることで勇気が出たり、頑張ろうという気持ちになったりした事はきっとあると思います。また、自分がした応援や励ましで、誰かの心が救われたり、誰かを勇気づけたりすることもあると思うと、自分も、人のために声をかけたという気持ちになりませんか。相手の心も、自分の心もポカポカしていきます。

私はさらに考えました。私が励まされたとき嬉しかったのは、温かい言葉があったからです。その言葉の裏には、こんな自分を理解し、認めてくれたという友達の気持ちがあったからだと気づきました。もちろん、その友達も負けて悔しいはずなのに、優しく励ましてくれて、私はそんな優しい友達に感謝し、尊敬しています。そして自分もこのようなことができるようになりたいです。

現在、私はこのような温かい言葉をもらい、生活していますが、ふと周

りをみてみると、聞きたくないような嫌な言葉、暴言が時々きこえてきます。言葉は人を勇気づけることができる反面、使い方を間違えると、凶器にもなります。言葉は、その人の気持ちの表れだと思えます。思いやりの気持ちで人に接することができれば、このような言葉もなくなっていくのではないのでしょうか。

皆さんも、ぜひ周りの人に温かい励ましの言葉をかけてみてください。その励まされた人も、自分にも、幸せと喜びが巡ってきます。そして、その幸せは、心に刻まれ、自分の「優しさ」へと姿を変えるでしょう。